

## 第33回 地域開発みちの会 フォーラム

2021年6月12日(土) 13:30~15:30

大府市役所 多目的ホール

### 上野千鶴子講演会「性差別をなくすために私たちは何ができるか」

#### 1 私たちにできることは、たくさんある

- ① 森喜朗五輪組織委会長，女性差別発言で辞任・・・権力者でも許されない
  - ・「#わきまえない女」かつての「わきまえた私」を反省し，共感が広がる
  - ・ジェンダー平等意識を持った娘を育てたのは，上の世代の女たち
- ② 伊藤詩織の性暴力被害告発・・・権力者でも許されない
  - 「#Me Too」運動は日本でも盛り上がったのに取材・報道されなかった
  - ・取材の企画書が男性上司によってつぶされたから
  - ・女性ジャーナリストの増加で取材ができるようになった

#### 2 フェミニズムが変えたこと，変えられなかったこと，これから変えること

1970年に日本にウーマンリブが生まれてから50年を振り返って

- ① フェミニズムが変えたこと
    - ・セクハラ不法行為化・・・言語化することで明らかになり，意識が変わる
    - ・DV防止対策・・・日本DV経験者59%の調査結果あり
    - ・痴漢の犯罪化
    - ・家庭科男女共修
    - ・男女混合名簿
    - ・お茶くみ廃止・・・運動の成果
    - 「家父長制と資本制」(上野千鶴子著)より
    - ・不払い労働の発見・・・家事・育児・介護はタダではない，対価を伴う労働
    - 専業主婦の反発(愛ある行為)，「逃げ恥」ドラマに見る家事の対価の常識
  - ② フェミニズムが変えられなかったこと
    - ・労働と経済に切り込めなかった
    - ・労働側の譲歩につぐ譲歩の歴史・・・派遣法と規制緩和
    - ・男女の賃金格差・・・正規でも女性は男性の約73%、非正規は正規の66%
    - ・非正規雇用の拡大・・・女性労働者の約6割が非正規
    - ・女女格差・・・正規雇用の総合職と一般職/非正規と正規
    - ・男性稼ぎ主モデル+ワンオペ育児
- \*コロナ禍があぶり出した女性への影響と課題
- ・非常時には，平時の問題が拡大，増幅して表れる
  - ・全国一斉休校により女性の負担増大・・・ケアワークの見える化
  - ・非正規雇用者へのしわよせ・・・女性非正規が飲食などサービス業に集中
  - ・シングルマザーの窮状・・・子どもの貧困は親の貧困 収入減，失職
  - ・在宅夫のDV・虐待の増加
  - ・特別定額給付金の世帯主支給は問題あり→個人単位にすべき

- \*日本女性の地位は国際ランキングで下がってきた 120位/153カ国
  - ・他国は格差是正しているが、日本の変化が遅く、取り残されている
  - ・日本は男女の賃金格差が大きい 非正規は正規の2/3の賃金
  - ・夫婦別姓について国連が3回是正勧告したが、未だに導入されない
  - ・低い政治分野・・・クォータ制は必要、達成した国はほとんどが採用
  - ・1985年男女雇用機会均等法と労働者派遣事業法 セットで可決  
ジェンダー平等と労働の柔軟化は同時進行→規制緩和がどんどん進む  
女の分断・貧困・格差社会が始まった「新・日本の階級社会」(橋本健二著)

### ③ これから変えること

- ・刑法改刑法改正(不同意性交罪/「抗拒不能」の削除/墮胎罪の廃止)
- ・民法改正(夫婦別姓選択制/再婚禁止期間)
- ・労働法制(均等処遇)
- ・政治参加(クォータ制)

### \*202030→どの分野も達成は難しい

- ・組織で少数派が3割になれば、組織は変わる 3割はその分岐点
- ・やる気のない与党、罰則規定がない→クォータ制の導入と罰則規定を
- ・フランスのパリテ法(男女同数にする、守らないと政党助成金を減額)  
「市民派議員になるための本」(寺町みどり・寺町知正著)

### \*コロナ禍で加速した新しい変化

- ・テレワークと職住一致・・・夫のテレワークが優先、妻のテレワークは寸断
- ・オンライン階級の登場・・・年収が多いほどテレワークが可能
- ・夫婦の家事育児の役割分担の変化、夫の家事時間増
- ・ポスト工業社会の新しい働き方・・・前近代：世帯と生業一致(家族で労働)  
→戦後、生産(職場)と消費(家庭)が分離→今再び、職住一致へ
- ・農業・加工・流通を合わせた6次産業の強み、生協の売り上げ3割増

## 3 フェミニズムの課題とメッセージ

- ・世代交替と継承
- ・社会変動と女性の課題の変化・・・女性の多様性と分断
- ・意思決定の場へ女性を

### \*東大の入学式祝辞で言いたかったこと

- ・強者は強者のままでいられない 強者は不安のかたまり

### \*みなさんへのメッセージ

- ・被害者にも加害者にも傍観者にもならないで
- ・だまっていたら「同意」、一緒に笑ったら「共犯」
- ・日常にあるいやなこと、性差別に、その時、その場で「待った」をかける  
「これからの男の子たちへ」(太田啓子著)

### \*こんな社会を実現したい

「安心して弱者になれる社会 安心して要介護になれる社会  
安心して認知症になれる社会 障害をもっても殺されない 社会を！」

### \*女性参政権行使75周年・・・選挙で社会が変わる

- ・市川房枝「権利の上に眠るな」

## 4 質疑応答

### ① 大寺暁美（美浜町・町会議員）

Q) どうしたら、わが町に女性議員を増やせるか。女性としての発言をすることが難しく、今、1人でやることの限界を感じている。

A) 仲間を増やす。議員として経験したことを伝える。「あなたにできるなら私もできる」と思ってもらう。選挙の時には、票を分け合う。女性議員が会派を超えて話し合う。

WANの動画「女性参政権行使 75 周年記念」を見てほしい。

<https://wan.or.jp/article/show/9492>

「市民派議員になるための本」（寺町みどり・寺町知正著）を読むとよい。

議員をパート制にすると、女性議員が増える。男は割が合わないとやらないから。

若い人にとって魅力的な「みちの会」になっているか検討してほしい。

### ② 森田登喜子（名古屋市）

Q) 生命工学的に急速に変化する現代社会における、女の性と生殖の自由について考えを聞きたい。

A) コロナワクチンがメッセージャーRNAを使用しているなど、こわいところがある。感染リスクを考えると、ワクチンが必要とされるような時代になった。

その一方で、女の性と生殖の自由が守られているかという点、とんでもない。

中絶の安全な方法や無痛分娩などの技術があるのに、日本ではなかなか普及しない。アフターピルが認可されないのも男性中心の政治だからだ。

WANの動画「日本のリプロダクティブ・ヘルス、なんでこうなの？」を見てほしい。

<https://wan.or.jp/article/show/9464>

### ③ 板倉恵美（半田市）

Q) 議員は個人営業。週2日休みがとれるなら女性もやれる。考えを聞きたい。

A) 国会も地方議会も週休2日なのに、土日には選挙区に顔を出して挨拶回り。

そんな議員に投票しているのが有権者。地域の利益代表のどぶ板選挙でなく、選挙区全体に関わる政策でアピールしてほしい。

女性議員が一番多いのは市議会、県・町村になると数が減る。

より小さいところは、地縁血縁の地盤をもとに、地域の利害が優先される。

女性が議員になりにくい構造がある。

選挙区全体の中で、共感を呼べる政策をきちんと発信して届けば、必ず当選する。

④ 都築広子（半田市）

Q) 小中学校では児童会・生徒会の会長に女子が多い。しかし、社会に出るとその女性の割合は激減する。ダイバーシティ、インクルージョン教育が言われる中、性差別（「もの言う女」が「わきまえる女」になるのを）をくいとめるにはどうすればよいか。

A) 学校も小中高大と上に行くほど、教師も男性が増える。学校も社会の縮図。隠れたカリキュラムがある。社会では、男性が権力をもっていることを女性も感じ取る。社会を変えてきたのは、現場の女性たちだ。女性の30歳定年制や結婚退職制を裁判で長年闘ってきた人たちは、「楽しかった」と言う。腹にためると腹の中はくさる。闘うことは、カッコいいこと。それを若い人に見せる。声を上げた女を孤立させない。仲間をつくる。

⑤ 鷹羽富美子（大府市・市会議員）

Q) 私は、娘から「女性にこだわりすぎている」と言われ、多様なものの見方を突き付けられる。考えを聞きたい。

A) 女性と言わなきゃいけない理由はまだ山ほどある。1つも解決していない。「あなたが言わなければ、だれが言うのか」と娘さんに伝えて。LGBTQも当事者が言わないといけない。どんどん発言すべきだ。

〈上野氏〉

大府市は、人口が増加している。名古屋のベッドタウン。ジェンダー統計をHPに載せていない。議員19人のうち8人、42%が女性議員だ。女性議員が多いことで違いが生まれたか？

〈鷹羽〉

女性議員が多いのは、石ヶ瀬会館に男女共同参画の拠点「ミューいしがせ」があり、市と協働で男女共同参画を取り組んでいるからと分析している。女性議員が増えたことで、生活の問題が議会の中で取り上げられるようになったと男性議員から言われている。

〈上野氏〉

女性議員が増えると、生活の問題が取り上げられるなど政治課題の優先順位が変わる。その実感はある？

〈吉見〉（大府市民）

大府市は、早くに男女共同参画推進条例ができた。（2003年施行）条例が施行されたら行政の男女共同参画推進の動きが鈍くなった。女性議員が増えて変わったという実感はない。

〈上野氏〉

条例を作って、やった感があって、それで終わってしまうことがある。例えば、JOC女性理事が4割に増えても、何も言わない。変化を実感できる市をつくってほしい。